

淀川を渡って帰宅

今回の大阪北部地震について、地図や写真を使って紹介してみたい。大阪に暮らして半年余り。これほど恐怖を感じた地震は、名古屋のときにも経験なく初めてだ。19日にもレポートしたように、地震発生7時58分には地下鉄御堂筋線「本町」駅で電車の中だった。地上に出るように指示する緊迫したアナウンスにせかされ、御堂筋に退避した。それから淀屋橋、梅田を経て、淀川にかかる長柄橋を渡り、3時間後に帰宅。

途中いろいろ「発見」もあり、今後に向けた課題も見えてきた。なかでも淀川を渡らないと帰宅できないことだ。

写真は『都市地図 大阪市』昭文社から。中央が淀川にかかる新淀川大橋で、新御堂筋に地下鉄御堂筋線が並行して走る。その東にJR京都線、梅田貨物線が通る。西には、阪急京都・宝塚・神戸線が走り、隣に十三大橋などが見える。

大阪の大動脈である地下鉄御堂筋線は、南の方に位置する「梅田」「中津」から、新淀川大橋を通り「西中島南方」「新大阪」へと続く。「新大阪」の次は、自宅に近い「東三国」だ。地下鉄御堂筋線とJR京都線が止まると、淀川を歩いて渡らなくてはならない。こんな状況が長時間つづいた。

地図下の写真は朝日新聞19日朝刊1面。大阪駅方面(奥)と淀川区を結ぶ新淀川大橋を徒歩で渡る人たち=18日午後6時50分。

「淀川にかかる新淀川大橋(約800m)は18日夕、大阪市中心部から大阪府豊中市や大阪府吹田市など北摂方面へ歩いて帰ろうとする人、その逆方向に向かう人とでごった返した。橋の歩道部分は1.5mほどしかなく、人々は急ぎ足で行き交った。」

地図の東に長柄橋が見える。阪急千里線が並行して走る。すこし行くと、「毛馬閘門」があり、春に自転車で行ったことがある。18日午前10時半頃、長柄橋を渡り、大阪市「柴島浄水場」を通って帰宅した。今回は火災や津波もなく、なんとか帰宅できたが、大津波が来たら淀川を渡ることなどできない。まさに「帰宅困難者」になってしまう。淀川という大河の「存在」を踏まえて、災害時の対応を考えなくてはならない。

(2018年6月22日)

